

# 「クリエイティブ・マーケティングの職場訪問による参画型学習」

経営学部 マーケティング学科 金川 智恵

## はじめに

この授業は2008年度「特色ある教育(改革個人部門)」助成により、(株)A.T.A (All Takashimaya Agency CO.LTD)のご協力を得て実施されたものである。同社は高島屋のマーケティング、コピーライティング等を主たる業務とする広告代理店である。クリエイティブ・マーケティングという多忙な現場を学生に提供してくださった(株)A.T.Aの関係各位に深く謝意を表すものである。

## 本授業の目的

本学経営学部マーケティング学科の理念は理論と実学のインテグレーションである。そもそもマーケティング学科設置の目的は、市場構造の変化や技術革新の加速化などの現象を受け、机上演習やインターンシップなどを重視する参画型教育の実現を行い、健全な労働観と経営マインドを保つ自律的・社会的・有為な人材育成の社会的要請にこたえることである。本授業はこのような設立の趣旨の具現化の一試みとして、現場における参画型授業を実施した。この目的の遂行のため、クリエイティブ・マーケティングの現場という、学生にとっては関心が高いものの内実についてはほとんど未知の世界を教育現場として選択し、そこでの参画型授業を企画した。

授業のねらいとしては、参画型という双方向の授業形態により、現場において問題発見をしたり、専門家の説明に刺激を受けることにより、学生がこれまで抱いていた漠然としたマーケティングに関する興味を、より明確な問題意識へと方向づけることである。

## 授業の概要

授業は2部構成である。第一部は(株)A.T.Aの業務紹介を中心に、クリエイティブ・マーケティングという業務の詳細な説明とそれに付随したフォトスタジオでの撮影現場の見学から成る。第二部ではマーケティング担当者、コピーライターと学生・引率教員との懇談および、その後のテーマプレストを実施した。

スケジュールの概要は以下のとおりであった。

- 13:30-14:00 挨拶および授業スケジュールの説明  
14:00-14:30 フォトスタジオ見学  
14:30-15:30 マーケティング担当者、コピーライターとの懇談  
15:30-17:30 テーマプレスト

11月26日(全日休校日)という訪問日の時節柄、フォトスタジオでは、高島屋のおせち料理、正月用品等の撮影が進んでいた。学生がこの授業で学んだ最初の事柄は、撮影が、カメラマン、カメラ助手のみならず、食品の盛り付け等担当のフードディレクター、その助手等々、ひとつの商品に多くのプロフェッショナルが関わってなされる共同作業であるということであった。

今回の授業で特筆すべきは、参画型授業の目的を遂行すべく、マーケティングの現場たる(株)A.T.Aから、学生をテーマプレストに参加させるという案を提示して頂いたことである。授業の進行は、テーマを学生に事前に与え、授業当日、学生とコピーライターがともにブレインストーミングを行うという形式であった。

テーマは、2009年3月20日、阪神電車と近鉄の相互乗り入れによる、「なんば」の再活性化である。より具体的には、①いままで直通では「なんば」に来にくかった西大阪方面(西九条・尼崎など)、神戸方面の新しい顧客を獲得すべく、「なんば」の魅力を、どうアピールしたらいいか、②高島屋だけではなく他の商業施設(例:なんばシティ、なんばパークス、南海電車、ほか各商店街)に、どんなことをしたら、「なんば」で途中下車して立ち寄ってもらえるか、であった。

テーマプレストの時間は、コピーライターの方々からの、阪神なんば線開通記念行事の提案書の学生への配布、その詳細な説明から始まった。その後、「なんば」のイメージは?という質問に端を発し、参加学生(たまたま今年度はすべて女子学生であった)から自由な発言やアイデアが呈された。テーマについての事前の学習が功を奏したのか、学生は実に活発に発言をしていた。正直なところ、これは嬉しい驚きであった。その様子はFig.1に反映しているのでご覧いただきたい。

学生のアイデアや感想はマーケティングの現場の専門家たちにとっても新鮮であったようである。以下、その感想の一部を引用する。

「来社していただいた学生の皆様から、ざっくばらんにご意見が伺え、たいへん参考になりました。難波が観光地だったり、外国だったなんて、いままで気づかなかったことです。一撃です。」(クリエイティブ・ディレクター 長谷川幸子様談)

翻って学生にとっても、自分たちの発言にコピーライターやクリエイティブ・ディレクターなど専門家が耳を傾けてくれたという得難い経験は、自信の大きな源泉となったようである。

## 本授業の成果

今回の授業は、学生のアクティブな反応や訪問先の方々の感想から、前述したねらいを十分満足させるものであったと思われる。しかし授業成果の本来的証左は学生の満足度に求められなければならないので、以下に掲載する彼らの感想に委ねることとする。

### <経営学部2回生 コカキン>

高島屋見学についての感想です。

テレビCMを見るときも、駅にある広告ポスターを見かけるときも、「このような宣伝はどういうふうになされたかな」といつも思います。今回は実際に働く現場を見るチャンスなので、行く前からとても楽しみでした。

高島屋の撮影スタジオを見学して、いかに魅力のあるきれいな写真を撮ってお客さんの目を引くのか、とても大変だと思いました。

ライターさんと学生たちはなんばの印象についての話し合いを通して、わかりました。それは、一人ひとりの視点が違いますので、話し合うことにより、今まで知らないことを知ることができるといことです。さまざまな視点から「なんば」を見ることができました。そして、現場で働くときの大変さも少しわかりました。

今回の見学を通して、とても勉強になったと思います。もしこれからチャンスがあれば、また行きたいと思います。

### <経営学部3回生 小西由紀>

昨日の高島屋への訪問ありがとうございました。

就職活動で百貨店も希望の一つに入れているので、今回の高島屋への訪問を希望しました。いつもはお客として高島屋を見ていましたが、高島屋（難波）に来てもらうにはどうしたらいいのか??ということを実際、現場で働いていらっしゃる方たちと話をし、また違った面から高島屋を見ることができました。

また、昨日のような形で社会人の方と話したのは初めてだったので、新しい空気に触れたようで貴重な体験をさせて頂きました。

本当にありがとうございました。

## <経営学部2回生 高橋愛実>

### 高島屋見学の感想

実際に働く方のお話を聞くことができるのは貴重な体験だと思い、今回の見学に参加させて貰いました。スタジオ見学などをさせてもらい、蒲鉾ひとつの周りを、たくさんの人と機材が囲んでいるのを見て、私がこれまで何気なく目にしていた広告にも、多くの時間と労力がかけられていることを目の当たりにしました。そのことに感心し、関心を持ちました。「そんな考え方が!」「そんな仕事か!」と感動し、「なるほど!!」と思うことの連続でした。

なにより、話を一方的に聞くだけでなく、意見交換の場を持てたことが嬉しかったです。生徒6人に対し、たくさんの方が話をしてくださりました。客層を捉え、集客力の強化を行うとともに、百貨店ならではの人选といった問題も含めた、店舗リニューアルの話は、経営学を学ぶ身として、大変勉強になりました。

事前に、高島屋の方から課題を頂いたことも、積極的に発言するきっかけとなりました。同じ生徒間でも、私の考えも及ばない発言がでて、興味深かったです。

また、高島屋へ実際に行き、建物の造りなどの、今まで学んでこなかった新しい分野のことも知り、視野を広げることができました。

私が今回の見学で印象に残っていることの一つに、普段の大学の講義では聞けないであろう、先生方の話を聞けたということがあります。「なんば」という街を、先生がどう捉え、どう発展させていくのかという意見を聞き、自身が持っている、「なんば」のイメージが変わりました。昔にあった「なんば」の温かさを私たちは知るべきで、なおかつ、食い倒れといったイメージを払拭させるべきではないのか?という発想は大変勉強になりました。

本当に楽しく、ためになる見学でした。このことは、これからの勉学、就職活動にも必ず役立ってくるだろうと思います。

## <経営学部2回生 竹林安佳里>

### 高島屋見学感想

ATAを見学させてもらって、社員の方も若い方が多くて男女比も同じぐらいでとても働きやすいような環境だと思いました。高島屋の広告があそこで作られてると思えないほどデスクも綺麗でびっくりしました。

スタジオでの撮影で、かまぼこの写真1枚に5人以上の人が関わっていて、どの向きがいいか、光の当たり具合はどうか、など話し合いながら撮影をされていて、これから広告を見ても「ああ～これはあんな風に撮られてるんやなあ」という違う見方をしてしまいそうです。でも、その裏側が見れてとても楽しかったし、興味深くてキョロキョロしてしまいました。

そしてなにより会議に参加させていただいたことが本当にいい経験でした。ATAの方に細かく

今されているお仕事の内容を教えていただき、その資料も見せてもらって本当に「わーすごい！」とずっと心の中で思っていました。そのうえ、私たち学生の意見も真剣に聞いてくださって、とても嬉しかったし、私自身も ATA のみなさんの意見や先生方の意見に納得させられたり、こういう考えもありだな、とかいろいろ考えながら有意義な 2 時間が過ごせました。

住んでいるところによって難波に対する印象が違ったり、社会人と学生での考えの差、大学の座学だけでは知れない・学べないことだらけでとても楽しかったです。企業の人と喋る機会すらバイト以外ではないし、会議形式なんて絶対に今回の見学に参加しなかったら社会に出るまでなかったと思います。参加する前に宿題という形式で議題をもらいましたが、そのときに考えてなかった考えや意見も会議中に出てきたのですが、それもすぐに発言できるような環境を作っていたことにとても感謝しています。

また機会があれば是非参加したいと思いました。ありがとうございました。



Fig.1 コピーライターと学生によるブレインストーミング  
(学生とコピーライターが交互に座っています。実に活発かつ楽しそうですよ。)



Fig.2 コピーライターと学生によるブレインストーミング